

# ほけんだより

令和6年度 12月号

早いもので、今年も残り数十日となりました。寒さも一段と厳しくなり、咳や鼻水などの風邪症状の園児もいます。これから年末にかけてイベントが盛りだくさんです。引き続き体調管理には十分気を付けていきましょう。

## 〜〜10・11月の感染症情報〜〜

10月：溶連菌感染症	・・・・・・	2名	(いるか組	くじら組)		
水痘(水ぼうそう)	・・・・	1名	(ぺんぎん組)			
11月：手足口病	・・・・・・	34名	(あかちゃん組	7名	ぺんぎん組	13名
			らっこ組	11名	いるか組	3名)
溶連菌感染症	・・・・・・	4名	(あかちゃん組	1名	らっこ組	1名
					いるか組	2名)
RSウイルス	・・・・・・	8名	(あかちゃん組	4名	ぺんぎん組	1名
			らっこ組	2名	くじら組	1名)
咽頭結膜熱(プール熱)	・・	1名	(いるか組)			

胃腸炎が流行しやすい季節になりました。胃腸炎は症状(下痢や嘔吐、発熱など)が治まり、普通の食事がしっかり食べられるようになってから登園可能です。主症状が無くなってからも数週間(ウイルスの種類によっては約1ヵ月)便にウイルスが排出されます。トイレの後の手洗いやオムツ交換後の便の処理には十分気をつけてください。

胃腸炎に係わらず嘔吐物や便などで汚れた衣類は感染拡大を防ぐ(二次感染予防の)為、園では水洗いや洗濯をせずにお返す場合があります。 家庭での適切な対処・洗濯のご協力をお願いいたします。

## ・・・・・・・・薬の約束・・・・・・・・

入園時にもお知らせしましたが園での『薬の約束』を改めて。

- 点眼薬、点鼻薬、軟膏は毎日持ち帰りです。与薬後は事務所の「持ち帰り薬入れ」に保管しています。帰りに忘れずに(保護者が)取りに来てください。
- 市販薬、坐薬、吸入器はお預かり出来ません。
- 「咳が出たら…」「歯が痛くなったら…」など、症状が出てから飲ませる頓服薬は与薬の要否の判断が難しい為、頓服薬はお預かり出来ません。
- 昼帰りや園外保育の時は安全を考慮して薬は預りません。家庭で調整して下さい。

受診の際は朝・晩2回で済む処方方を依頼して、園で服薬しなくても大丈夫になるよう、ご協力をお願いします。

## 動きやすい服で登園しましょう。

最近の子ども達はとってもおしゃれです。ただ、園での服装は「活発に遊べるもの」を考慮して選んで頂きたいと思います。

下着を着る

保湿性・吸湿性を考えると綿100%で半袖のものが望ましいです。キルティングの長袖シャツは動きにくく、暑すぎます。

安全なものを着る

フードや紐はどこかに引っかかる恐れがあるので危険です。チャックやボタンは子どもが一人で着脱し易いか、安全かどうか家庭で確認してみましょう。

うす着でも平気

園では暖房がほぼ1日中使用されているので、裏起毛の衣類やヒートテックは（日中）暑すぎます。着せ過ぎは汗をかいて逆に冷えてしまいます。外に出る時はしっかりした上着（防寒衣）を着て、中は着脱し易い薄手の服装で登園するのが望ましいです。

全ての衣類に（ジャンパー・帽子含め）記名してください。

## 子どもの発熱と受診のタイミング。

私たちがよく聞かれる質問の1つです。「熱が出たから、すぐに受診した方が良いですか？」「もっと早く受診したらこじれないですみましたか？」・・・

病院の受付時間などの問題もあるので『大正解』は無いですが、①子どもの元気具合 ②ウイルス検査を希望するかどうかの2点が受診のポイントなるかと思います。

### ① 子どもの元気具合

熱の高さよりも、相手をすると少し遊ぶことができ、すすめると水分を摂れて尿量がいつもの8割は出ているなら少し様子を見ていても大丈夫。熱はそれほど高くなっても、ぐったりして反応が乏しく、尿量がいつもの半分以下なら急いで受診して下さい。

### ② ウイルス検査を希望する

インフルやコロナは発熱してから24時間後くらいが検査を受けるのに良いと言われています。発熱直後は検査の信頼性が低く、発熱後12時間未満だと、それより早いと偽陰性の判定がつき「明日また検査受けてね」とすすめられる事もあります。

色々な条件がありタイミングを決めるのは難しいのですが、保護者の方が迷う時はまず受診して相談することをおすすめします。また、受診をして薬を服用しているのにいつもよりも元気がない、鼻水や咳が出る等の場合は家庭でゆっくり身体を休めることが大切です。

インフルエンザと新型コロナウイルス感染症は医師の意見書提出から保護者サインの「感染症に関する報告書」に変更になりました。（期間はR7・3月末まで。）